

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

令和 6年 12月 27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470203906		
法人名	医療法人 和同会		
事業所名	グループホーム五日市		
所在地	広島県広島市佐伯区五日市町下河内188-6 (電話) 082-927-2511		
自己評価作成日	令和6年11月20日	評価結果市町受理日	令和7年2月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470203906-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年12月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

・入居者一人ひとりが、その人らしく、毎日を安心して楽しく役割を持って過ごすことができるように支援している。 ・併設に広島グリーンヒル病院があることから、健康、医療面で協力体制を整えている。感染対策も強化している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

医師・看護師・理学療法士・栄養士と介護職員のチームケアのもとでサービス提供を行っている。家庭的な雰囲気を作る工夫として、玄関先に木材を多用したり、家庭用システムキッチンの設置、全居室が畳部屋で、ソファを複数配置し、飾りつけも家庭的なものを置いている。広報物の発行や日常的に家族への報告を行い、話しやすい雰囲気に努めておりコミュニケーションの充実を図っている。コロナ禍で感染防止のため外出を控えていたこともあり、施設内の季節の行事を大切にしている。
--

自己評価	外部評価	項 目（ たんぽぽユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、日々の介護において、実践につなげている。	法人理念に基づき、ユニットごとに年度目標を掲げ台所の横に掲示している。年度末に振り返りを行い次年度の目標を定めており、今年度は、「その人らしさ」と「地域に根差した活動」を掲げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で感染予防のため、外出など、控えていたが、徐々に地域への外出など、再開している。	コロナ禍で控えていたが、近くの公園や観光施設への通所リハビリテーションの車両を使って外出を再開している。併設施設の通所リハビリテーションやケアハウスのイベント開催に参加し交流を図る意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が地域の方々へ向け、認知症についての勉強会を設けていたが、コロナ禍で、機会が少ないままである。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回のペースで会議を行い、現状報告や話し合いの中で出た意見をもとに、サービスの向上に努めている。	利用者、家族、地域包括支援センター職員の参加により2か月に1回開催している。面会について参加者の意見から、タブレット端末を使った面会や1階の相談室での面会、居室での面会と緩和している。民生委員の参加について働きかける意向である。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議への参加など検討しているが、まだ実践はできていない。	佐伯区グループホームネットワーク研修会や集団指導等各種研修会に参加している。要介護認定の更新時の訪問調査等の協力を職員が行っている。管理者は地域の公民館等での認知症の学習会に講師として協力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ たんぽぽユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	重要事項にも記載しており、身体拘束委員会も設置し、常に考慮して取り組んでいる。現在、身体拘束は行っていない。	身体拘束廃止の方針を掲げ、2か月に1回身体拘束廃止委員会を開催している。研修会は年に2回開催している。身体拘束に係る同意書および記録用紙等の各種様式は整えている。日中、出入口の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティング、勉強会にて職員全員に再確認させ、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を開き、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	必ず入居前に重要事項説明書を説明し、理解、納得の上入居されている。不安な点や疑問などがあれば、小さいことでも対応するように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍で面会制限をしていたが、現在、制限を緩和し、ご家族と直接、対話し、意見を聴く機会が増えている。その後は、管理者、職員に意見を伝え、対応している。	利用開始時に、苦情相談の担当者や行政の窓口等の説明を行っている。家族とは、面会時や電話連絡時、メールを通じて意見を聴取し運営に反映させている。家族の意見から食べ物の持ち込みについて緩和したことがある。玄関に意見箱を設置している。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ たんぽぽユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	普段から意見を聴く機会を多く持ち、また、ミーティングを開き職員の意見交換を行っている。また、必要であれば、申し送りノートに記載し、ミーティング以外でも意見や案を聴き出し、検討している。	月に1回開催するミーティングで職員の意見を聴き運営に反映している。車いすをリクライニングタイプに変更したり低床ベッドの導入につながったことがある。日常のケアについては、連絡ノートで職員同士が共有し対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員と話す機会を日常的に設け、個々のやりがい、向上心が持てるように、環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の参加が少なかったが、DVDを活用したり、参加方法を工夫し、職員が研修に参加できる機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域のグループホームとのネットワークを作って、研修会等に参加、また、情報交換をしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人と、入居される前に面談を行い、ゆっくりと話を傾聴し、信頼関係を築くことが出来るよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ たんぽぽユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談や電話などを通じてご家族の思いを聴く機会を頻回に設けることで、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居するにあたり、事前に本人・家族の希望を確認し検討を行い、まずは2週間の暫定プランを策定し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	感染対策を実施しながら、一緒に家事を行ったり、レクリエーションなどの活動を行うことで、コミュニケーションを図り信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	感染予防に努めながら、電話や面会、グループホームの日常生活が分かるような広報の発行など、利用者と家族の絆が途切れることのないように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で、外出や友人との面会など、制限があったが、電話や手紙などで交流を図ることができるように支援している。	家族との関係が継続できるよう電話や手紙の支援、タブレット等を活用している。面会は家族を対象としているが今後知人友人も可能とする意向である。訪問理美容については同じ職員に来てもらうよう配慮している。馴染みの大型店舗や観光施設の訪問の再開を検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ たんぽぽユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者ひとりひとりの理解に努め、利用者同士のコミュニケーションを円滑に図ることが出来るよう職員が対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後も本人・家族へ電話や相談、援助を行い、関係を保っている。ホームで撮った写真などをアルバムにしてお渡ししたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	必ずケアプラン策定には、本人、家族の意向を聞き、対応している。認知症のため、自分の想いを伝えることが困難な方は、日頃の表情や様子を見て、想いをくみ取ることが出来るように努めている。	利用開始前に自宅を訪問し、家族の意向や生活歴・趣味嗜好を把握し、生活の継続ができるよう詳しい情報を貰うようにしている。日ごろの会話や表情、仕草から利用者の意向を把握し、3ヶ月に1度モニタリング時に利用者・家族の意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族や今まで利用されていたサービス職員より、より多くの情報を得ることが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタルサインのチェックや、全身状態の観察を行い、個々のカルテに体調や状態の変化等を記入し、また、日々の過ごし方も詳しく記録に残すことで、一人ひとりの現状把握に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ たんぽぽユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員を中心に本人、家族、医師等の意見を聴き、3ヶ月ごとにモニタリング、担当者会議を実施し、6ヶ月ごとにプラン作成している。	担当職員が3か月ごとに「ケアプランの実施記録」の確認と家族の意向を確認しモニタリングを実施している。モニタリング結果を管理者（医師）が参加するミーティングで話し合い、必要に応じてケアプランの作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	バイタルサインや、日々の状態を個人カルテ、ケアの実践はプラン実施表に記入し、職員間で情報共有し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族の状況に応じ、その都度相談、検討を行い柔軟に対応する努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	感染対策をしながら、個別外出を行うことで地域のスーパー、飲食店などを利用し、楽しく過ごすことができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の納得の上、隣接の病院に受診をしている。その他の病院への受診が必要であれば、家族の協力のもとで行っている。	利用開始時にかかりつけ医について、利用者・家族に併設の病院の説明と同意を得ている。歯科、眼科は訪問診療があり、他の専門科は家族が受診に連れて行き、必要に応じて職員が同行している。法人内の理学療法士や栄養士と連携を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ たんぽぽユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設施設の外来看護師に週に1回グループホームにて「健康管理」を行い、報告、相談を行っている。利用者がスムーズに適切な受診、看護を受けることができるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院の相談員と情報交換を行っている。また、常に関係作りに努め、適切な対応ができるようにしている。また、それ以外の病院に入院した場合も担当相談員と密に連絡を取り、対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重要事項説明書の説明と同時に重度化の指針を説明している。また、個別に重度化した場合や終末期についての話し合いをその都度、行っている。	利用開始時に重度化の方針を説明している。また、重度化が進む都度、終末期の対応について家族と話し合い適切な施設や医療サービスの利用について確認している。看取りの事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、対応ができるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	併設の病院、施設との合同火災訓練があり、その中に参加している。その経験を元にホーム内での話し合い、独自のマニュアルを策定している。また、夜間を想定した訓練を行い、地域の協力体制も築いている。	業務継続計画(BCP)は併設の病院、施設と共通する部分とグループホームに係る部分で構成されている。備蓄品は併設施設全体で行っている。地域と災害時の協定を結んでおり、避難所の役割を担うとともに、住民の方には利用者を駐車場へ避難誘導に協力してもらうことになっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ たんぽぽユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格の尊重、誇りや、プライバシーを損なわないように、声かけや対応について職員同士で検討し、実践している。	接遇やプライバシーの研修を年1回実施している。個人情報の扱いについて利用開始時に説明し、写真の扱い等の同意を得ている。入浴時や排泄時の声掛けに注意し、個別のケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が認知症であるため困難な場合があるが、できるだけ本人の想いを受け取り、自己決定ができるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者個々のペースを把握し、できるだけ希望に添えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々、衣服を選んでいただいたり、髪をとかしたり、男性は髭を剃ったり、自分でできることは行いながら、身だしなみを整えることができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の好みを把握し、メニューに取り入れている。 感染予防に努めながら、食器の片付けなど、職員と一緒に出来ることを行っている。	季節感のある行事食や誕生日には好みの献立として、お節や赤飯、ちらし寿司、炊込ご飯、海鮮丼、牛すき、うなぎなどを取り入れている。手作りおやつとして、ゼリーやプリン、ホットケーキを提供している。アレルギー対応やミキサー食、栄養士と連携した食事形態で提供している。	

自己 評価	外部 評価	項 目(たんぽぽユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	栄養課と連携、相談を行い、ひとりひと りの状態に合わせて、カロリー計算をし たり、ひと口大にカットする嚥下困難な 方には、トロミをつけたり形状を工夫し て安全に摂取できるように支援をしてい る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを行っている(職員は できるだけ本人の力でやることのできる ように対応している)。必要に応じて歯 科往診をし、口腔内の清潔保持に努めて いる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、対応して いる。できるだけ自分の力でやってもら うように支援している。	排泄の記録表を付けて排泄パターンを職 員間で共有し対応している。脳梗塞後、 おむつからパットに改善された例もあ る。2居室に1箇所トイレがありトイレで の排泄を支援している。頻尿の方も医師 と連携し、安定した睡眠を確保すること で改善につながったことがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	食べ物、水分摂取にも注意し、医師と相 談しながら下剤の使用や運動をすすめる など、排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	体調、タイミングなど、個々に応じた状 態で対応し、入浴を楽しんで頂けるよう に支援を行っている。	週に2～3回入浴している。拒否のある方 は無理をせず、午前・午後、日にちをず らすなどして入浴している。洗身洗髪な ど出来ることは利用者が行い、介助者が フォローしている。皮膚の弱い利用者には 個別対応したり、「お風呂セット」を持 っている利用者もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目(たんぽぽユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	個人、また、その日の体調に合 わせ、日中臥床時間を設けてい る。日中廊下、ソファにて休息 できるように、環境整備してい る。 ソファを置く位置なども、入居 者の状態に合わせ検討してい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	医師の指導、薬剤師から出され る薬の作用、副作用を表すしお りをしっかり確認、理解し、対 応するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	利用者ひとりひとりに役割を持 っていただき、また利用者同士 で声を掛け合ったり助け合うこ とで、より生き生きと生活して いただけるように支援してい る。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	コロナ禍で外出は控えていたが 、感染状況をみながら、徐々に 制限を緩和、個別外出を再開 している。	コロナ禍で外出は禁止していた が、冠婚葬祭の外出は可能とし ている。春には近くの公園に外 出し、秋は高速道路のサービス エリアへ家族と出かけている。 併設施設に移動販売車が来る タイミングで買い物に出かける など、外出の緩和に取り組ん でいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	外出時にお金を持って行き、買 い物するなど、個々に応じた支 援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目（ たんぽぽユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙のやり取りを行っている。年賀状を家族に出し、近況をお知らせしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	快適に過ごせるように、色彩や光の加減、室温調整等に対応している。季節に合わせて飾りを作ったり、居心地の良い環境作りに努めている。	鉄筋の高層建物の中ではあるが、玄関先に木材をたくさん使ったり、家庭用のシステムキッチン、畳の休憩場所など意識して家庭的な雰囲気づくりを行っている。ソファも複数配置し一人になれる空間や季節を感じる工作物の展示を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室前の廊下で利用者同士や職員とゆっくり過してもらったり、一人で過ごせることができるように、ソファやテーブルを設置している。食堂の席などを人間関係に考慮しながら、快適に過ごせるように対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が今まで使用していた物や家具など持ちこんでもらったり、居心地よく安心してもらえる環境を作っている。	居室内には畳が敷かれ落ち着いた雰囲気がある。洗面台があり、プライバシーを確保し整容を行うことができる。馴染みのものとして鏡台や椅子、テレビ、ダンス、人形や家族写真、小物などを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	スロープ、手すりを設置し、安全に、できるだけ個々の力を活かし、自立した生活ができるように環境整備をしている。		

V アウトカム項目(たんぽぽユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくらユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、日々の介護において実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で感染予防のため、外出など、控えていたが、徐々に地域への外出など再開している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が地域の方々へ向け、認知症についての勉強会を設けていたが、コロナ禍で機会が少ないままである。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、会議を行い、現状報告や話し合いの中で出た意見をもとにサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議への参加等、検討しているがまだ実践はできていない。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくらユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	重要事項にも記載しており、身体拘束委員会も設置し、常に考慮して取り組んでいる。現在、身体拘束は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的なミーティング、勉強会にて再確認し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を開き、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	必ず入居前に重要事項説明書を説明し、理解納得の上入居されている。不安な点や疑問などがあれば、小さなことでも対応するように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍で面会制限していたが、現在、制限を緩和し、ご家族と直接、対話し、意見を聴く機会が増えている。その後は、管理者・職員に意見を伝え対応している。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくらユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	普段から意見を聴く機会を多く持ち、また、ミーティングを開き、職員の意見交換を行っている。必要であれば、申し送りノートに記載し、ミーティング以外でも意見や案を聴き出し、検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員と話す機会を日常的に設け、個々が向上心を持って働く事ができるように環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の参加が少なかったが、DVDを活用したり、参加方法を工夫し、職員が研修に参加できる機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域のグループホームとのネットワークを作って、研修会などに参加意見、また、情報交換をしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居される前に面談を行い、本人の想いをしっかり聴く時間を持ち、信頼関係を築くことができるように努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくらユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談や電話などを通じてご家族の想いを聴く機会を頻回に設けることで信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居するに当たり、事前に本人、家族の希望を確認し、検討を行います。2週間の暫定ケアプランを策定し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	感染対策を実施しながら、一緒に家事を行ったりレクリエーションなどの活動を行うことで、コミュニケーションを図り、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	感染予防に努めながら、電話や面会、グループホームの日常生活が分かるような広報の発行など、利用者と家族の絆が途切れることのないように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で、外出や友人との面会など、制限があったが、電話や手紙などで馴染みの人との関係が維持できるように努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくらユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者ひとりひとりの理解に努め、利用者同士のコミュニケーションを円滑に図ることが出来るよう職員が対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後も本人・家族へ電話や相談、援助を行い、関係を保っている。ホームで撮った写真などをアルバムにしてお渡ししたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	必ずケアプラン立案時には本人、家族の希望、意向を聴き、対応している。認知症のため、自分の想いを伝えることが困難な方は、日頃の表情や様子を見て、想いをくみ取ることができるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族や今まで利用されていたサービス職員より、より多くの情報を得ることができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタルサインのチェックや全身状態の観察を行い、個々のカルテに日々の体調や状態の変化等を記入し、また、日々の過ごし方も詳しく記録に残すことで、一人ひとりの現状把握に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくらユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員を中心に、本人、家族、医師等の意見を聴き、6ヶ月毎にケアプランを作成（3ヶ月毎にモニタリング・担当者会議）している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	バイタルサインや日々の状態を個人のカルテ、ケアの実践はプラン実施表に職員間で情報共有し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族の状況に応じてその都度、相談、検討を行い柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	感染対策をしながら、個別外出を行うことで、地域のスーパー、飲食店など利用し、楽しく過ごすことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の納得の上、隣接の病院に受診をしている。その他の病院への受診が必要であれば、家族の協力のもとで行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくらユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設病院の外来看護師に週に1回グループホームにて「健康管理」を行い、相談、報告をしており、利用者がスムーズに適切な受診、看護を受けることができるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院の相談員と情報交換を行い、相談をし、常に関係作りに努め適切な対応ができるようにしている。 また、それ以外の病院に入院した場合も、担当相談員と密に連絡を取り、対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重要事項説明書の説明と同時に重度化の指針を説明している。また、個別に重度化した場合や終末期についての話し合いをその都度、行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成したり、勉強会に参加し、対応ができるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	併設の病院、施設との合同火災訓練があり、その中に参加している。その経験を元にホーム内での話し合い、独自のマニュアルを策定している。また、夜間を想定した訓練を行い、地域の協力体制も築いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくらユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない様に声掛けや対応について職員同士で検討し、実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が認知症である為、困難な場合があるが、できるだけ本人の想いを受け取り、自己決定ができるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者個々のペースを把握し、できるだけ希望にそえるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々、衣類を選んでいただいたり、髪をとくしたり、男性は髭を剃ったり、自分で行うことは行いながら、身だしなみを整えることができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の好みを把握し、メニューに取り入れている。 感染防止に努めながら、食器の片付けなど、職員と一緒にできることを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目（ さくらユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	栄養課と連携、相談を行い、ひとりひと りの状態に合わせて、カロリー計算をし たり、ひと口大にカットする、トロミを つけたり、また、嚥下困難な方にはトロ ミをつけたり、形状を工夫し、安全に摂 取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行っている。（職員は できるだけ本人の力で行うことができる ように対応している）必要に応じて歯科 受診（往診）をし、口腔内の清潔保持に 努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し対応してい る。できるだけ自分の力で行ってもらう ように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	食べ物、水分摂取にも注意し、医師と相 談しながら下剤を使用や運動をすすめる など、排便コントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	体調、タイミングなど、できるだけ個々 に応じた状態で、対応できるように支援 している。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくらユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	個々の習慣、状況に応じて日中 も居室やソファで休んだり、気 持ちよく過ごせるように支援し ている。ソファを置く位置など も、入居者の状態に合わせ検 討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	医師、薬剤師の指導のもと薬の 作用、副作用を表すしおりをし っかりと確認、理解し対応して いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	利用者ひとりひとりに役割を持 っていただき、また利用者同士 で声を掛け合ったり助け合う ことで、より生き生きと生活し ていただけるように支援してい る。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	コロナ禍で外出は控えていたが 、感染状況をみながら、徐々に 制限を緩和、個別外出を再開 している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	外出時にお金を持って行き、買 い物するなど、個々に応じた支 援を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくらユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙、ハガキのやり取りを行っている。年賀状をご家族に出し、近況をお知らせしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	快適に過ごせるように色彩、光の加減、室温調整等対応している。季節に合わせて飾りを作ったり居心地のよい環境作りに努力している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室前の廊下にソファを設置し、自由に過ごしてもらえるようにしている。また、食堂の席等、人間関係を考慮しながら快適に過ごせるように対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の今まで使用していた物や家具などを持ちこんでもらったり、居心地よく安心して過ごしてもらえる環境を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	スロープや手すりの設置など、環境設備を行い、安全にできるだけ個々の力を活かし、自立した生活ができるように工夫している。		

V アウトカム項目（ さくらユニット ）← 左記（ ）内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム五日市

作成日 令和7年2月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	コロナ禍で外出など控えていたため、今後は徐々に制限の緩和をしていきたい。	外出の機会を増やす。	個人個人の希望を聴きまた、感染対策を行いながら、外出の機会を増やしていく。	3 か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。